

平成27年度しおあなの森保育園 事業報告

民営化から4年が経過し、順調に園運営できている。保護者とも良好な関係が築かれている。園の保育についてごつくばらんに話し合う意見交流会では、お互いに遠慮せず様々なことを話し合え、保育の向上につながる話もできるようになってきた。

1. 保育について

年間を通して一日の生活の流れを同じにすることで見通しを持って生活できるようになってきた。9時までの登園と規則正しい生活の必要性を機会があるたびに訴えてきた結果、徐々に成果が出てきたように思う。しかし、昼前の登園もあり、引き続き当園の大きな課題である。

子どもの気持ちを受け止めることについては、園内研修会を開き学び合ってきた。子どもの主体性を尊重した保育の実践を心がけてきた。しかし、子どもの思いを丁寧に受け止められず、保育士の一方的な思いで子どもを動かそうとすることもまだ残っている。

菜園活動は引き続き活発に行ったが、連作障害などもあってうまく育てられなかったものが多かった。

年間の延べ保育対象児童数は、1,888人で月平均157.3人(定員160名)であった。ちなみに昨年度は月平均160人だった。転居(8人)による退園の大変多い年であった。今年度の苦情件数は7件で、保育園の対応についてが2件(同じ保護者)、保育士の対応が4件、けがについてが1件であった。どれも話し合いで解決している。

2. 延長保育の利用について

年間で延べ975人で、1昨年の774人を大きく上回った。19時を超える利用も、決まった子どもで数多くあった。兄弟2人を預かっていた家庭では、20時前になることも度々で、1度の利用で1,800円にもなり、料金をもらうのが心苦しかった。保護者からは、『延長保育時間であっても、明るい所で(どんぐりの部屋や病後児保育室など)、珍しいおもちゃで、先生たちとたのしそうに遊んでいるのを見て安心します』という言葉をいただいている。

3. 一時預かり

年間の利用件数は175件で昨年の169件より増えた。土曜日の利用や0歳児3人の利用の時は職員の配置に苦労したが、シフトを変えて対応した。

4. 子育て支援

園庭開放の参加者は695人あった。子育てに関する相談件数は145件であった。食事に関することが1番多く、次いで社会性の育ちについてが多かった。

5. 交流保育について

市立堺老人福祉センターや愛らいふに出かけた。回数を増やすことが課題である。小学校の運動会では例年の倍の2つのダンスを披露して喜ばれた。

陵西・大浜中学校の職業体験学習や保育実習で生徒たちは保育士の仕事の大変さと大切さを学んでくれた。将来は保育士になりたいという生徒もいてうれしい。園からは大仙西小学校の西の子まつりの参加や入学前の二校の見学(新湊のわくわく広場と大仙西)に行った。共愛保育所とは5歳児を中心に交流した。27年度は11の小学校に入学していった。保育実習生の受け入れの短大は2校で4人だった。

6. 研修について

市・府の委託を受けた研修、民間保育園保育士会や府社協が実施する研修などを受講した。職場研修のエピソード記述研修の際には各人が自らの保育を出し合い、保育を振り返った。人権研修は共愛保育所と合同で実施した。また、心肺蘇生法は27年度も全職員が実地研修をした。年間の自己研修を1冊のノートにまとめ、年度末の自己評価の際の添付資料とした。

幼稚園教諭の免許を取得していない職員が、半年間、短大に講習を受けに行き、幼稚園教諭の資格を取得した。また、通信教育を受講していた職員も無事免許を取得して、いつ、こども園になっても、保育教諭として勤務することができるように準備が整った。